

Ⅱ 各教科

1 国語

(1) 第1学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

- ・授業評価アンケートの回答では、授業内容に関する質問項目に対して「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」の肯定的な回答をした生徒が98%以上であった。また、教科に対する興味・関心も肯定的な回答をした生徒が86%であった。生徒にとっておおむね納得できる授業になっていると考えている。

イ 学力の状況

- ・「知識・技能」について

80%の生徒が十分満足できる・おおむね満足できる状況にある。

中学校で新たに学習したこと（文法など）をそのときに理解することはできるが、小学校で学習した漢字を正しく書くことや以前に学習したことを別の学習時に活用することには課題がある。

- ・「思考・判断・表現」について

86%の生徒が十分満足できる・おおむね満足できる状況にある。

自分の中でじっくり考えることはできるが、その自分の考えたことを伝え合うことや、共有したことをもとにさらに考えを深めたりすることに課題がある。

- ・「主体的に学習に取り組む態度」について。

90%の生徒が十分満足できる・おおむね満足できる状況にある。

授業に対する姿勢や課題の提出状況もおおむね良好であるが、プリントに自分が考えたことを整理して後から見返せるように記述したり、板書以外を記入したりすることに慣れていない。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・学習した内容を反復学習することを通して、他の学習でも活用できるスキルにする。
- ・相互に考えを共有することを通して、自身の考えを広げたり深めたりする。
- ・学習の振り返りを通して、自身が身に付けた力や身に付けたい力を意識して、日々の学習に取り組む。

イ 指導面（教師の課題）

- ・単元または1単位時間の目標や、単元を通して身に付けたい力を具体化・明確化し、生徒に常に意識させることで、生徒の学習意欲を喚起し、達成感・充実感を味わわせる。
- ・ねらいに沿った主体的な言語活動を積極的に取り入れる。
- ・ワークやプリントの点検等、生徒の個々の取組を評価する機会を日常的に取り入れる。

③ 授業改善案

ア 言語活動の取組

- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」について、「何のために話すのか」「何のために書くのか」という目的意識をもって取り組ませる。また、むやみに話したり書かせたりするのではなく、上手に話したり書いたりするためのスキルをきちんと教えた上で、取り組ませるようにする。
- ・「読むこと」について、物語・小説では場面展開や情景描写に注意して読み、生徒同士で意見を交流させながら、場面の展開や登場人物等の描写に注意して読ませる。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・毎時間授業プリントを作成する。学習内容や流れが分かるように、単元ごとに通し番号を付け、復習への手掛かりにできるようにする。

- ・必要に応じてワークシートを用意し、書くことへの負担を軽減させる。
- ・1 単位時間の目標や学習活動を明確化し、生徒が常に見通しをもって授業に取り組むことができるようにする。

ウ 家庭学習の定着

- ・5 分間程度の帯時間を利用して、漢字学習を行う。「覚える」→「練習する」→「確かめる」という学習の基本的な手順を踏ませながら、家庭学習の習慣を定着させる。
- ・必要に応じて家庭学習の課題を準備し、知識が確実に定着するよう働きかける。

エ 授業の受け方

- ・常に、手にペンを持ち、板書以外に、気付いたことや考えたこと等を書かせることで、授業への集中を促す。
- ・単元が終わった後には必ず、まとめの課題を提示し、学習のまとめを意識させる。

(2) 第2学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

- ・授業評価アンケートの回答では、授業内容に関する質問項目五つに対して「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」の肯定的な回答をした生徒が平均94%以上であったため、生徒にとっておおむね納得できる授業になっていると考えている。しかし、教科に対する興味・関心への肯定的な回答が64%であったことから、興味・関心が下降傾向にある。

イ 学力の状況

- ・「主体的に学習に取り組む態度」について。
73%以上の生徒がおおむね満足できる状況である。
日々の授業の振り返りをする習慣がついてきた。少し難易度の高い課題に対しても粘り強く取り組もうとする姿が見られる。
- ・「知識・技能」について。
70%以上の生徒がおおむね満足できる状況にある。
授業で習得した知識・技能を定期考査前に復習し、定着を図っている。長期休みの課題を中心に語彙を増やす取り組みを続けているが、増やした語彙を活用しようとする姿が見られる。
- ・「思考・判断・表現」について。
64%以上の生徒がおおむね満足できる状況にある。
正誤がはっきりしているものに対しての理解度が高い。例えば、文章の内容を捉えたり、決まったルールに従って話したり書いたりすることなどである。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・既習事項を他の学習に生かすことができないか試行錯誤する。
- ・文法や漢字など、習得した知識・技能を日常生活に生かす。
- ・他の生徒と考えを共有したり話し合ったりすることを通して、相互に考えを広げたり深めたりする。
- ・目的意識をもって日々の学習に取り組み、振り返りで成果と課題を明らかにし、次の学習につなげていくサイクルをつくる。

イ 指導面（教師の課題）

- ・単元または1単位時間の目標や、単元を通して身につけたい力を具体化・明確化し、生徒に常に意識させることで、生徒の学習意欲を喚起し、達成感・充実感を味わわせる。
- ・話し合い活動やスピーチ等、ねらいに沿った主体的な言語活動を増やす。
- ・生徒が授業だけでなく日々の生活に生かすイメージがもてるように授業展開を工夫する。

③ 授業改善案

ア 言語活動の取組

- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」について、「何のために話すのか」「何のために書くのか」という目的意識をもって取り組ませる。また、むやみに話したり書かせたりするのではなく、上手に話したり書いたりするためのスキルをきちんと教えた上で、取り組ませるようにする。

- ・「書くこと」について、学習者用端末を活用して自分の考えをまとめたり発表したりする活動を増やす。
- ・「読むこと」について、物語・小説では場面展開や情景描写に注意して読み、生徒同士で意見を交流させながら、場面の展開や登場人物等の描写に注意して読ませる。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・1単位時間の目標や学習活動を明確化し、生徒が常に見通しをもって授業に取り組むことができるようにする。
- ・単元の振り返りのワークシートを統一する。
- ・授業のポイントをいつでも見直せるように学習者用端末で共有ページを作成する。

ウ 家庭学習の定着

- ・必要に応じてスタディサプリの該当ページを紹介し、補習学習を促す。

エ 授業の受け方

- ・毎時間必ず日付、めあて、振り返りをノートに記述させる。単元の学習の終わりには単元の振り返りワークシートを記述させる。
- ・学習者用端末を活用して、生徒同士が学び合う機会を増やし、考えを深めさせる。

(3) 第3学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

3年生の学習状況について、以下のような特徴が見られる。

- ・全体として、授業に対して積極的であり、態度も良好である。また、進路と関連しての学習意欲の向上も見られている。
- ・授業評価アンケートの回答では、すべての質問項目に対して「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」の肯定的な回答した生徒が平均93%を占めており、生徒にとっておおむね納得できる授業になっていると考えている。
- ・毎週の小テストに向けて多くの生徒が意欲的に学習に向かっている。
- ・発言する場面では、丁寧な指導が必要である。意見や感想はもっているものの自ら発言する生徒は特定されている。
- ・文章作成では、多くの生徒が意欲的に取り組もうとしている。反面、自分の考えを伝える課題に対して相手意識をもって論理的に書くことに課題がある生徒もいる。文法のミスに気が付かずにいる生徒もいる。

イ 学力の状況

全国学力・学習状況調査から

- ・「知識・技能」、「思考・判断・表現」の2領域で全国平均を上回っている。
- ・多くの項目で無回答率が1%以下なのに対し、「表現の工夫を生かして物語の続きを考える課題」に関して無回答だった生徒が13%ほどであった。自分の言葉で読解したことや、作品の表現を生かすことができないか、課題の意図が分からないのか、自分の言葉で表現することに課題があるのかを慎重に判断していく必要がある。
- ・「話すこと・聞くこと」をはかる課題が全国平均よりも6.5ポイント高い。意見と根拠を意識した話し方や、内容の理解の力が身に付いている。

定期考査、授業の様子から

- ・知識や技能を積極的に身に付けようと努力することのできる生徒が多い。今後は理解したことを組み合わせて思考したり、表現したりする指導をより丁寧におこなっていく。
- ・論理的な文章を復習しながら丁寧に行う。例えば読んだり書いたりする機会を増やしていく必要がある。また、複数の資料を読むことや、複数の条件を意識する必要がある課題を学習させたい。
- ・漢字の読み書きの力は伸びている。毎週の小テストに意欲的に取り組んでいる。特に読み方を問うテストは満点の生徒が95%以上である。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・話す速度や音量、相手や場に応じた言葉遣い等についての知識を生かして話す力や、相手の発言を注意して聞き、自分の考えをまとめる力を身に付ける。また、話し合いを通して考えを深め、よりよい結論が出るような良質な質問をする力や、課題意識をもつこと、話の展開などを整理する力を磨く必要がある。
- ・目的や必要に応じて要約したり要旨を捉えたりする力や、場面の展開や登場人物等の描写に注意して読み、内容の理解に役立てる力を身に付ける。
- ・初見の文であっても正確にすばやく読み取れるように、練習を積む必要がある。
- ・書いた文章を読み返し、表記や文法等を確かめ、読みやすく分かりやすい文章にする力を身に付ける。

- ・学習や日常生活に必要な漢字の読み書きの力を身に付ける。また、文字を丁寧に書く習慣を身に付ける。

イ 指導面（教師の課題）

- ・単元または1単位時間の目標や、単元を通して身に付けたい力を具体化・明確化し、生徒に、常に意識させることで、生徒の学習意欲を喚起し、達成感・充実感を味わわせる。
- ・ねらいに沿った主体的な言語活動を取り入れる。
- ・ワークシートの点検等、生徒の個々の取組を評価する機会を日常的に取り入れる。
- ・生徒間で書いたものを見合う活動を通して相互に語感を磨き、よりよい文章を知る活動を定期的に設ける。

③ 授業改善案

ア 言語活動の取組

- ・話す、書くについて、「何のために話すのか」「何のために書くのか」という目的意識をもって取り組ませる。また、そのために必要な根拠や資料を取捨選択するようにしたい。話し合い活動に関しては、段階を踏んで「評価しながら聞く」「俯瞰的に対話の流れをつかむ」「自分の意見を伝える」力を身に付けながら「合意形成に向けた話し合い」の力を育てる。
- ・読むことについて、内容をつかむだけでなく作者の意図や構成の是非などを判断する力を育てる。
- ・初見の文章に慣れるよう、定期的に実践問題を解く時間をつくる。回数をこなす中で徐々に読むスピードや正確さが向上していることを生徒自身が実感できるように工夫する。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・単元の見通しがもてるようなワークシートを作成する。
- ・ICTを活用し、書字に困難を抱えた生徒に対して補助をする。
- ・1単位時間の目標や学習活動を明確化し、生徒が常に見通しをもって授業に取り組むことができるようにする。

ウ 家庭学習の定着

- ・スタディサプリーで宿題を定期的に出題し、予習復習を習慣化する。
- ・単元ごとに、まとめプリントを作成して自身の苦手克服や知識を深める課題を行えるようにする。

エ 授業の受け方

- ・自分の意見をまとめる課題を出すと同時に、少人数での共有を通して積極的に思考することや他者とのかかわりの中で、学校で学ぶ意義を実感するような仕組みを作る。
- ・授業や単元の終わりに、必ず学習を振り返り、学習成果を確認させる。
- ・必要に応じてスタディサプリーなどを活用した家庭学習の課題を準備し、知識が確実に定着するよう働きかける。